

ウズベキスタンでNUC作物の普及イベントを開催しました

農学部生命環境農学科の明石欣也教授の研究グループは、鳥取大学国際乾燥地研究教育機構 (IPDRE) のイノベーション創出研究プロジェクトの一環として、NUC作物の研究開発および社会実装に関する活動を進めています。このたびIPDREは、サマルカンド国立大学を始めとする内外パートナーと共同で、農業関係者向けにNUC作物を普及するイベント「Farmers' Field Day」を、乾燥と塩害が厳しい中央アジアのウズベキスタン共和国のサマルカンド郊外の農場で、2025年4月26日に開催しました。



会場となった農場に立てられたイベント看板



農業関係者や行政関係者など、60名以上が参加しました。

NUC作物とは

NUC作物はヌック作物と読み、**Neglected and Underutilized Crop**の略で、高い栄養価と機能性成分を豊富に含みながらも、人類の歴史の過程で育種利用が進められずに、「忘れられ、使われなかった作物」を指します。NUC作物は、キノアやアマランサスなど「スーパーフード」とも呼ばれる作物群を含み、過酷な環境でも栽培できます。



イベント会場では、NUC作物の種子や、栽培に用いる器具、NUCを食材として調理したお菓子などが展示されました。

NUC栽培の実演

普及イベントには、鳥取大学から明石農学部長に加え、2名の農学部学生が参加しました。イベントでは、鳥取大学と学术交流協定を締結しているサマルカンド国立大学の農業バイオ技術・食料安全保障研究所のToshpulot Rajabov所長や、両大学の橋渡しを進めてきたKristina Toderich教授、またカラカルパキスタン農業機構のZulfiya Sultanovna教授らが、農業関係者や行政関係者など60名を超える来場者に対してNUC作物の特長や利用法などを説明しました。また、種の植え方についてデモを行い、栽培法などについての指導を行いました。



明石農学部長の挨拶



地元テレビ局の取材を受ける明石農学部長



NUC作物のタネ植えの実演

NUC作物の普及へ

NUC作物は、ウズベキスタンのような過酷な乾燥・塩害地域でも栽培できることが実証実験で確かめられています。NUC作物の普及がさらに進み、乾燥地の食料供給に貢献することが期待されます。



鳥取大学およびサマルカンド国立大学の学生も、スピーチを行いました



農村の女性グループ（右）と、両大学の女子学生（左）の交流

以下の現地メディアでも報道されました

National Newspaper Xalq so'zi - Voice of People: <https://xs.uz/uz/post/samdu-va-yaponiyaning-tottori-universiteti-olimlari-fermer-va-tomorqa-er-egalari-uchun-dala-seminari-tashkil-etdi>

Samarkand Journal: <https://samarqandim.uz/news/186>

Samarkand State University: <https://www.samdu.uz/uz/news/60238>